【研究主題】　特別活動の学級会を利用した学級の視覚化

【副題】　生徒の変化を見逃さない学級経営を目指して

【所属校名】　滋賀県　守山市立明富中学校

【職名・氏名】　教諭　　小澤　元生

＜主題設定の理由＞

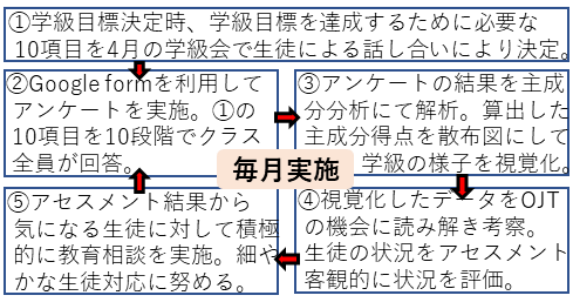
学級経営を行う上で最も重要なことは、学級の生徒一人ひとりの実態を把握する、確かな生徒理解である（学習指導要領総則編）。学習や生活の基盤となる学級を経営するために必要な生徒理解は、様々な角度から生徒の実態を把握することが求められる。しかし、生徒の実態を捉える力は担任経験の有無や、経験年数によって大きな差が生じることが問題となっている。

特別活動における学級会は、生徒の自治的能力・問題解決能力の育成に非常に効果的であることから近年注目されている。令和６年８月の滋賀県教育課程研究協議会等でも、学級会の重要性について議題に挙がっており、様々な活動の実践報告や意見交流が行われている。本校では10年前より全校体制で学級会を実施しており、生徒による生徒のためのPDCAサイクルを目指す「学級目標の達成率の学級会」が確立されている。

本研究では、特別活動での学級会を実施するときに得られる、学級目標に対する生徒の評価を、学級での生徒の様子を示す情報として活用し、誰もが同じ目線で学級の状況を評価できるように、学級の生徒の様子を視覚化した。本研究の取り組みを通して、近年注目が高まりつつある「学級会」にさらなる付加価値を見出し、その有用性について検討した。

＜内容と方法＞

本研究は令和５年４月～令和６年３月を調査期間とした。調査は５学級、総生徒数（N＝150）で学級ごとに下図の①から⑤の手順で調査を実施した。図の②～⑤の内容を毎月実施した。概要として学級会の際にアンケート調査で得られる、学級目標を達成するための10項目10段階を評価した生徒ごとのデータを主成分分析で分析した。分析で得られた各生徒の主成分得点を散布図で表し視覚化した。散布図の●は生徒個人を示し、横に生徒名を示して生徒をアセスメントした。



分析の特性上、分散が最大となる新たな軸をつくりだすことができるため、常に学級を評価するために有効な要因が得られると考えた。表１は10項目の項目と分析で得られた固有値及び固有ベクトル一覧である。10項目10段階の数値を選ぶための基準は、学級会の中で生徒が話し合い決定し、アンケートの度に基準を確認した。視覚化した結果をもとに逸脱した位置にいる生徒に対して積極的に教育相談を実施した。

表１ 固有値及び固有ベクトル一覧

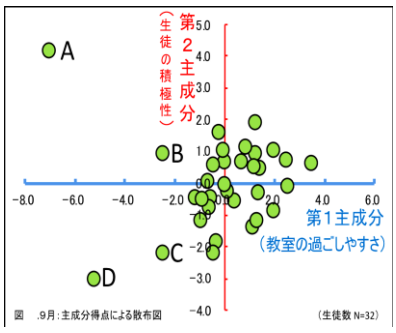
主成分（固有ベクトル）	第１主成分	第2主成分	主成分（固有ベクトル）	第１主成分	第2主成分
個性	0.095	0.441	清潔	0.381	−0.146
情熱	0.377	−0.044	チャレンジ	0.186	0.591
安心	0.373	−0.158	ルール	0.344	−0.141
前向き	0.224	0.563	仲良し	0.293	−0.250
切り替え	0.367	0.023	礼儀	0.376	−0.090
固有値	4.209	1.854			
寄与率(%)	42.1	18.5			
累積寄与率(%)	42.1	60.6			

＜成果と課題＞

主成分分析の基本的な手法通り実践し、横軸は情熱・安心・清潔・礼儀という項目から教室の過ごしやすさ、縦軸は個性・チャレンジという項目から生徒の積極性と考察し、各生徒と学級のアセスメントを実施した。

集団から逸脱した点を示す生徒に教育相談を実施したことで、いじめ等の生徒指導事案の早期発見につながった。例として、部活動でトラブルになっていた、夏休みの間に喧嘩していたなど、教室の外で発生した事案も教育相談の中で数例見つかり、積極的な生徒指導が実践できた。上記の事案の全てが、生徒が訴えてくるよりも前に、教師側が動くことができ、「子どものことをよく見てくれている」と保護者からの信頼を得られるようになった。逸脱した点を示す生徒の中には学校生活を頑張りたいという悩みを抱える生徒も存在し、前向きな教育相談も多く実施することができた。

本研究で実施した内容は学級目標を設定する多くの学校で教師の経験年数に関わらず、実践することができ、注目されている学級会をより価値あるものにできると考える。



現在では本校の全学級（15学級）で毎月実施し、全校体制で生徒理解を深められるように取り組んでいる。